

大学・地域共創プラットフォーム香川

令和5年度 第1回 地域活性化部会

令和5年5月29日（月）

I	取組状況報告	P1
II	対象確認事業報告（PF補助金）	P7
III	その他	P10
IV	意見交換	P11

I 取組状況報告

① 学生による観光資源の情報発信等（強化）

アイデアソンの提案を踏まえ、観光資源を題材に学生目線による体験取材や情報発信、ツアー企画等を実施

ねらい

- ◆ 若者目線による新たな施策展開を図る ◆ 若者（学生）が地域の魅力を発見（シビックプライドの醸成）

R4年度の取組み

観光資源情報発信

- 大学生や地域おこし協力隊等が観光ポイントを出し合うグループワークを開催
- 大学生が体験取材をし、県のInstagramで若者目線の観光情報記事を発信（3本）



反響

「いいね！」
平均650件

参加学生の感想

「プロが1本の記事を作るプロセスを体験でき、刺激を受けた」

Udonken_kagawa https://www.instagram.com/udonken_kagawa

R5年度の取組み

観光資源情報発信、ツアー企画等の検討（強化）

- 大学生が自ら企画・取材・記事作成を行い、若者目線での観光情報を発信
- 市町と連携し、観光資源情報をSNSで発信
- 地域の観光資源を盛り込んだ学生目線のツアー企画等を検討

強化ポイント

- 企画～取材～記事作成までを学生が主体的に行うことによる人材育成
- 大学等や取材先の市町との連携を強化
- 投稿数を増やし、より多くのターゲットに向けて情報を発信する

② アンケート調査の詳細分析等と対策検討（強化）

R4年度のアンケート調査の詳細分析や課題共有、分析結果等を踏まえたインタビュー調査等の実施、対策の検討

ねらい

- ◆ 就職トレンド及び県内就職に関する意向の把握
- ◆ 傾向を分析し、各団体及びP F 事業に活かす

R4年度の実施

学生対象アンケート調査

- 県内外の就活を行った大学生470名が回答
- 就職活動や県内就職に関する意向調査
- 調査結果をPF総会及びメール送付にて各団体と共有

主な調査結果

- 大学進学で県外に出た学生は、半数以上が就職で県内に戻らず、大学進学で県内に来た学生は、大半が就職で県外に戻っている
- 県外就職を決めた理由として、希望する業種や職種の企業等があったことが最も多く、業界別では、情報通信業、サービス業、製造業でその傾向が強い。
- 男性はより給与や企業の安定性、知名度など、仕事の条件やステータスを重視する傾向があり、女性は仕事の条件に加え、地元で働けることや職場の雰囲気、ワークライフバランスなど、仕事・生活の環境も重視する傾向がある。

R5年度の実施

R4 アンケートの
深掘り分析

- 各団体の異なる視点から多角的に分析・共有
- 課題の抽出及び仮説の設定

定性調査

- R4アンケートを補完する定性調査を実施、定量調査では見えない学生のニーズをインタビュー等で調査

対策の検討

- 調査結果を基に、ポイントを押さえ対策を検討

提案

PF・各団体の取組みに活かす

③ 関係案内所等の先進事例勉強会の開催等（強化）

関係案内所等がある県内の先進事例から地域活性化のポイント等を学ぶ勉強会の開催、課題共有、他地域への活用検討

ねらい

- ◆ 先進事例の理解・課題やポイントの洗い出し
- ◆ 参加者同士の交流
- ◆ 地域コミュニティの活性化

R4年度の取組み

関係人口等に関する勉強会の開催

- R4年2月13日に、東かがわ市五名で勉強会を実施し、大学等、経済団体、市町、まちづくり団体等から計29名が参加
- 移住者や関係人口といった地域外の人材と連携した地域の受け皿づくりについて、「五名活性化協議会」や移住者と意見交換し、理解を深めた



拠点施設となっている「五名ふるさとの家」



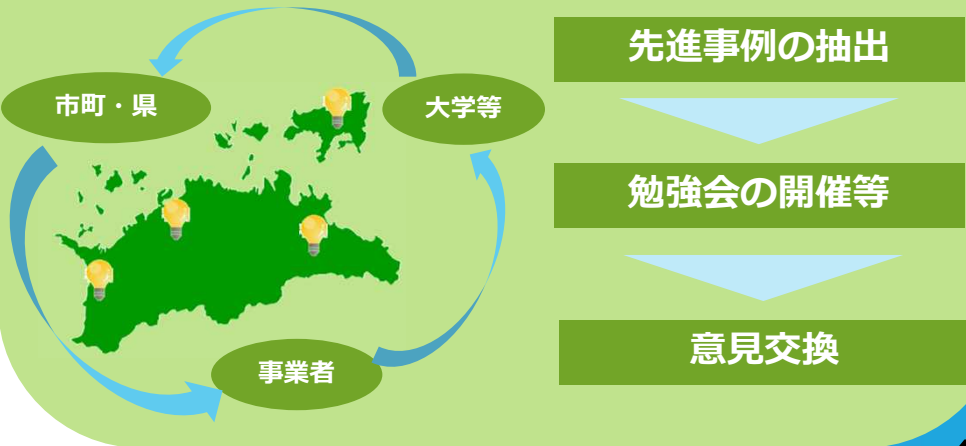
勉強会の様子



R5年度の取組み

先進事例勉強会の開催等

- 各市町や大学等と連携して地域活性化の先進事例をピックアップ
- 大学等での講座受講も検討
- 勉強会の開催等により、先進事例を学ぶ
- 各地域における課題や学んだ事例を踏まえた対応等を話し合い、他地域への活用を検討する



④ 産学官関係者の連携強化に向けた交流促進（新）

地域で活躍する県内の企業・大学・高校・自治体の関係者や学生がつながり、連携を深める交流会等の開催

ねらい

- ◆ 産学官関係者の新たな関係性の構築
- ◆ 交流促進による連携強化
- ◆ 自発的な連携事業の出現

R4年度

- R4年度の意見交換会で以下の意見あり
 - 自治体ごとに課題がバラバラである中、地域の産学官関係者のマッチング・交流会が大事。
 - 大学教員等の専門などについて、相互に知る関係性構築の機会が必要。
 - 中学生や高校生に地域の課題を知ってもらうことは重要。

3 意見交換会 (R4.11.7) 報告									
大学・地域共創プラットフォーム香川 第4回地域活性化部会（意見交換会）									
日時：令和4年11月7日（月）15:30～17:00									
場所：県庁北館 4階404会議室									
出席：大学等5名、中小企業家同友会1名、市町10名、県3名、PT事務局2名 計21名									
内容：「これまでの振り返り、進め方」及び「今後の取組み（案）」をテーマにグループワーク									
これまでの振り返り	自治体の個別課題等は数えきれない共有する場合、絞る必要がある。	困りごととは色々あってきりがいい一つでも取り組むのがいいが何をすることが大事。	各市町では様々な良い取組みをしており、優良事例の拾い出しと共有が大事。	今後の取組み	学生による情報発信、コンテストは効果が期待できる。	学生が楽しく集まってもらえるようなところから始めたい。	中学生や高校生に地域の課題を知ってもらうことは重要。		
今あるテーマをしっかりと掘り下げていくことが重要	アイデアソンでアイデアが出たものに優先的に取り組めばいい。	長期的な取組と目下の課題への取組両方がないと協議だけでは続かない。	アイデアソンは続けたらいい。参加したメンバーも好評で、他地域でも実施したい。	同友会の「わがまち」(三次高校等)は他地域でも交流は意味がある。	地域の産学官関係者のマッチング・交流会は意味がある。	必要な時に企業側が大学側に働きかける環境・関係づくりが大事。	大学教員等の専門が不明・相互に知る関係性構築の機会が必要。		
事業効果の測定も大事だが、進捗を説明して関係者の理解を深めることも重要	短期的に効果や結果を求めるのではなく、長期的に考えないといけない。	担当者レベルで情報共有し、会の開催は節目でいい。	若者の意見を重視するのはいいこと。	社会人の初任者研修を大学の講師が行うというのはいかがか。	自治体ごとに課題がバラバラ。マッチングが大事。	社会人向け講座は受講者が高齢者ばかりで、若者の定着につなぐとは考えにくい。	人口減少と上手に付き合っていく方法を考えていかないといいかない。		
何として何を指しているのか、まだ見えていない。				県外に出ていく人をするのは意味がない。以とか新しい取組みをやるのがよい。	今までやったことをやるのは意味がない。以とか新しい取組みをやるのがよい。	出来ることからやっていけばいいのではないか。			

R5年度取組み
産学官関係者の連携強化に向けた交流促進

WG

各団体の担当で構成されるWGを設置

各団体の課題や取組み等を共有

交流会等の開催の企画・共有

交流会等の開催



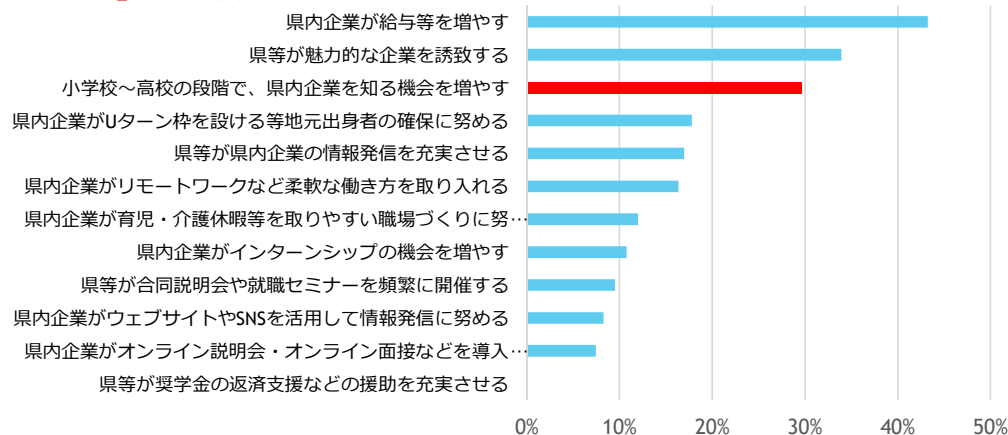
高校と企業のつながりについて

仮説

高校生と地域企業が関わる機会を設ければ、県内定着につながる

R4学生対象アンケート調査

「香川県での就職を希望する人が増えるにはどうすればよいか」について、全体の約30%が「**小学校～高校の段階で、県内企業を知る機会を増やす**」と回答



経済界の意見

高校生のうちから地域の企業を知ることによって、県内企業への就職又は一度県外に出た後の県内へのUターンが増えるのではないかと。

県内高校への聞き取り

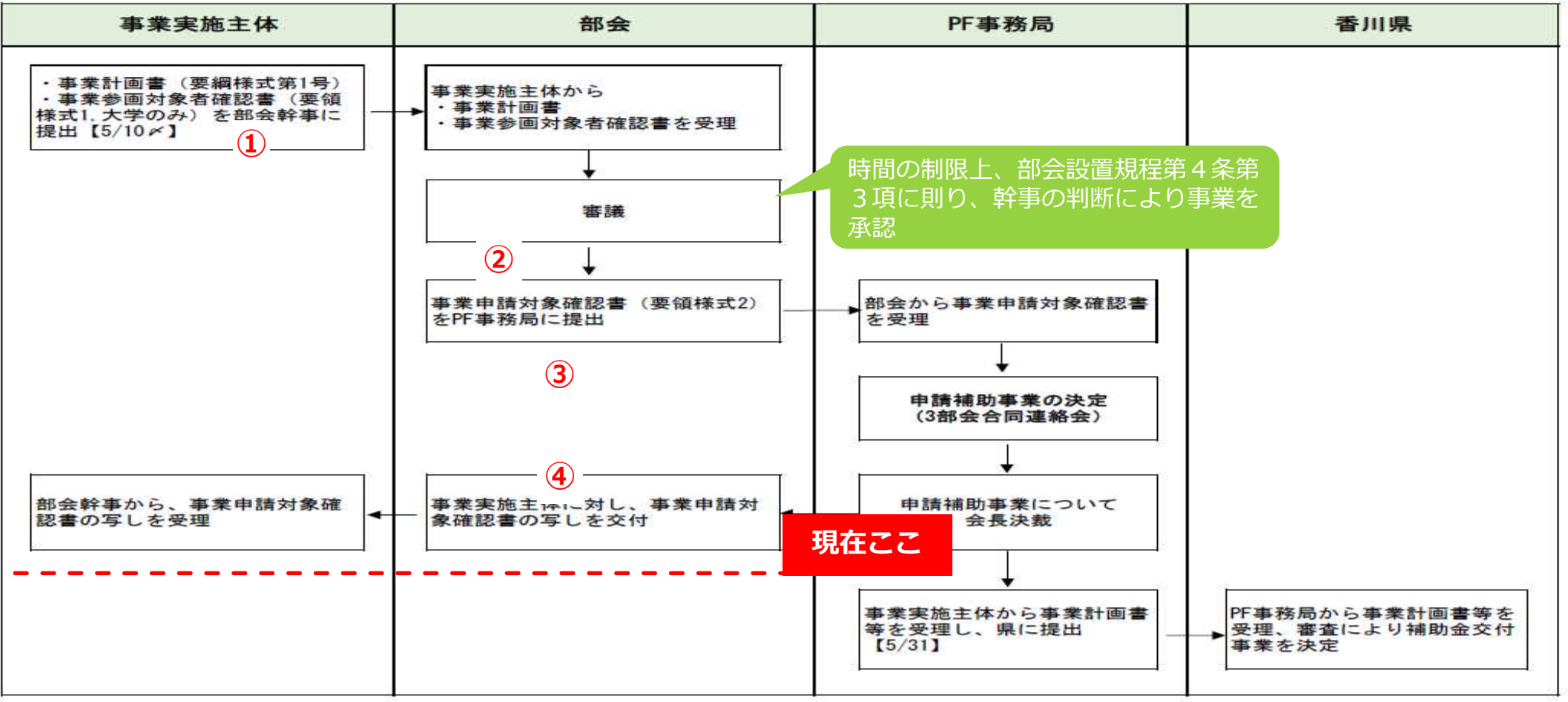
- 「総合的な探究の時間」の取組みで地域企業との関わりを持っている高校がある
- 地域の企業と連携したいが、現状できていない高校もある
- 高校関係者の感覚的には、県内定着の効果があると思う
- 企業が高校生と関わる際、目的は、人材確保ではなく、教育・人材育成・地元理解の促進を目的としている

引き続き調査を行いつつ、PF事業化を考えたい

Ⅱ 対象確認事業報告（PF補助金）

大学・地域共創プラットフォーム香川 産学官共創チャレンジ支援補助金

■ 補助金交付決定までの流れ



大学・地域共創プラットフォーム香川 産学官共創チャレンジ支援補助金

■ 地域活性化部会

No.	事業名	該当する分野	事業概要	事業実施主体	参画団体	経費 (補助対象経費)
1	学生主体の適塩活動による「健康かがわ」の新しい魅力創出事業	その他挑戦実証「健康」	学生がレシピを作成し、企業の協力のもと、学生食堂で「適塩ランチ」を提供する。採尿検査や食事検査を行い、調査結果をまとめ、県民の健康づくりを展開する基礎資料とする。	香川短期大学	個別企業 丸亀市 宇多津町 多度津町 香川県	1,062千円
2	県内産業の魅力認識と若者の地元定着意識PLUS事業	UJIターン促進 人生100年時代教育展開 関係人口連携 等	アントレプレナーシップの醸成を狙い、事業者による講演会とディスカッションの実施、地域事業者による取組みの講義を行う。	香川短期大学	せとうち観光 専門職短期大学 高松短期大学 個別企業 三豊市	1,578千円
3	小児入院患者 地域交流事業 ～ホスピタルアート・レモネードスタンド活動を通じて～	若者チャレンジ企画応援	香川大学附属病院の小児病棟に入院している子どもたちと病院外の人々が協働するアート活動及び大学生によるレモネードの販売を通じて小児がんの啓発活動を行う。	香川大学	個別企業 三木町	1,024千円
4	防犯アプリを活用した陸と空からの防犯パトロールの推進	地域資源開発 その他挑戦実証「安全・安心の確保」	防犯アプリにおける新たなルート探索機能の開発、防犯グッズ・防犯アプリ使用マニュアルの作成、防犯アプリを活用した防犯パトロールの実践と効果検証。	香川大学	個別企業 香川県	2,110千円

Ⅲ その他

IV 意見交換